

救急車の適正利用や救命措置が命をつなぐ

9/9(水)は救急の日

救急の日は、救急医療関係者の意識を高めるとともに、救急医療や救急業務に対する国民の正しい理解と認識を深めることを目的として定められています。救える命を救うために、救急車の適正利用や心肺蘇生法による救命措置が大切です。この機会に、命をつなぐ大切さを家庭で話し合ひましょう。

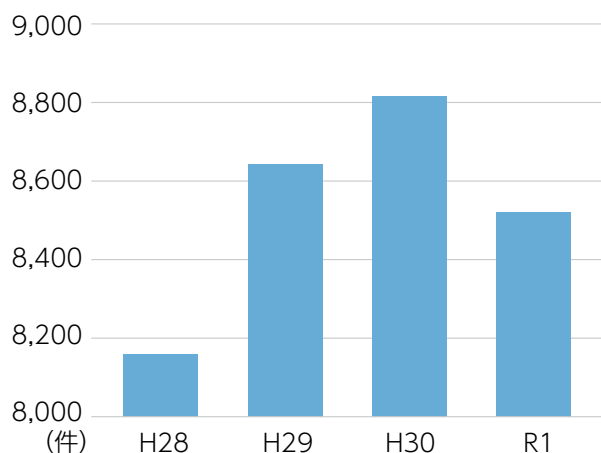
富士山南東消防本部
警防救急課
972-5803

救急車の適正利用を ～搬送者の半数以上は軽症者～

富士山南東消防本部管内の令和元年中の救急車の出場件数は8,546件で、ここ数年は8,500件前後で推移しています。119番通報で救急要請を受けると、対応可能な最も近くの救急隊を出場させていますが、出場件数が増加すると、遠くから救急車が現場に向かうため、本当に救急車が必要な人のところへ到着するまでに時間がかかります。

搬送者の半数以上は軽症者です。不要な救急要請は救える命が救えなくなる危険性が高まります。救急車の適正な利用をお願いします。

救急出場件数推移



新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた市民による救急蘇生法

救命のためには心肺蘇生法が重要です。新型コロナウイルス感染症が流行している状況では、以下の手順が推奨されています。心肺蘇生はエアロゾル（ウイルスなどを含む微粒子が浮遊した空気）を発生させる可能性があるため、全ての心肺停止傷病者に感染の疑いがあるものとして対応してください。

心肺蘇生を行うときの注意点

①反応を確認する、呼吸を観察する

確認や観察のときに、救助者と傷病者の顔が近づきすぎないようにしてください。

②胸骨圧迫を行う

開始前にハンカチやタオルなどがあれば、傷病者の

鼻と口にかぶせるようにしてください。マスクや衣服でも代用することができます。

③胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ

子どもに対しては、講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思があるときには、胸骨圧迫に人工呼吸を組み合わせることができます。成人に対しては、人工呼吸は実施せずに胸骨圧迫を継続してください。

119番通報時に情報提供を



富士山南東消防本部指導救命士 山田 武史さん

新型コロナウイルス感染症が疑われる患者に対し、救急隊は肌の露出を減らし、N95マスクを着用して感染症対策に努めています。119番通報の際に、発熱症状や呼吸苦などの症状がある場合は、事前に情報提供をお願いします。



●夜間、休日の当番病院の問い合わせ ☎983-0115

●災害発生場所の問い合わせ ☎983-0105

※119番は火災・救急の専用電話です。上記テレホンサービスをご利用ください。